

第6章

WG委員会の設置と調査内容の検討

第6章 WG委員会の開催

6.1 WG委員会の開催

本調査の目的は、第1章の概要で示したように、原子力や原子力の平和利用に関する知識普及活動のあり方についての世論調査の結果を、各ステークホルダーに活用していただくことにある。そのためには、情報の受け手に、本調査の内容や結果の評価・分析が公正なものであると認知していただくことが重要である。

そこで、調査結果の分析・評価を行い、結果の妥当性、活用方法等について検討するため、原子力分野の学識経験者、社会心理学や社会調査等の専門家、教育関係者を中心としてワーキング委員会を設置した。

(1) 開催日と主な議事内容

1) 第1回委員会

開催日時:平成24年10月23日(火) 10:00~12:00

議事次第:

- ① 平成24年度原子力利用に関する世論調査」の概要について
- ② 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」質問改訂について
- ③ 集計方法、分析方法、アウトプットレポートイメージについて

2) 第2回委員会

開催日時:平成25年1月29日(火) 19:00~21:00

議事次第:

- ① 単純集計結果および経年変化とりまとめの報告
- ② 重点的な分析結果の報告
- ③ 報告書章立てについて
- ④ 委員コメント執筆のお願いについて

6. 2 第1回WG委員会

「平成24年度原子力利用に関する世論調査」 第1回WG委員会 議事録

日 時：平成24年10月23日(火) 10:00～12:00

場 所：東京大学第一本部棟会議室

出席者：

(委員)

飯本 武志	東京大学 環境安全本部 主幹 准教授
木村 浩	東京大学大学院工学系研究科 准教授
齋藤 朗	社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部 部長
富山 雅之	台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

(事務局)

横手 光洋	日本原子力文化振興財団・専務理事
船越 誠	日本原子力文化振興財団・企画部長
河崎 由美子	日本原子力文化振興財団・企画部副部長
鈴木 彩子	日本原子力文化振興財団・企画部
白須 桐紀	日本原子力文化振興財団・企画部

配付資料：

- ① 議事次第
- ② 出席者名簿
- ③ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」概要
- ④ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」事前調査概要
- ⑤ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」修正前質問一覧
- ⑥ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」修正(案)
- ⑦ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」クロス集計軸(案)
- ⑧ 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」
新規質問アウトプットレポートイメージ(案)

1. 開会挨拶

事務局より開会挨拶のあと、議事次第に基づき審議に入った。

2. 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」概要(p.238-239)

配布資料③に基づき、今年度の調査概要について説明した。

本調査は全国規模の世論調査を経年的、定点的に実施し、原子力に関する世論

の動向や情報の受け手の意識を正確に把握することにより、様々なステークホルダーが、原子力に関する知識の普及活動のあり方等を検討するために、情報の受け手が求めている情報を確実に伝える手法等に関する知見を得ることである。

今年度調査においては、昨年度の結果から、国、事業者、専門家、原子力発電に対する信頼が低下することを受けて、クロス集計をより詳しく行い、どの要素が関連しているかを分析する。調査の流れとしては、本委員会において質問項目、分析方法を決定し、11月に調査を実施したいと考えている。調査会社は前回に引き続き日本リサーチセンター(株)のオムニバス調査を利用する。実施予定期間は平成24年10月31日～11月12日、手法は例年通りと考えている。12月から調査結果を分析し、平成25年1月に第2回委員会を実施し、世論調査結果の報告及び報告書構成を決定したい。

3. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」質問改定の概要 (p.255-256)

事故後1年を受けて、文言が不適當になっている部分を中心に改定したい。具体的には、問6のプルサーマルに関する注釈の部分で、「現在運転中」とあるが、現状では不適當なので改定したい。

問19では、毎年原子力やエネルギーに関するニュースを質問するが、今年度のニュースとして、配付資料5のニュースの中から12個程度を後ほど討議頂きたい。

問22は、昨年度は「事故直後に原子力や放射線についての情報を積極的に得ようとしたか」というように、事故直後に遡って思い出してもらった質問だったが、今年度は調査時の積極性を聞くため、「得ようとしていますか」と現在形の形で修正したい。

問23にも同様に、昨年度は事故直後の心配を遡って思い出してもらった形式と調査時の心配を聞く質問が併存していたが、今年度は調査時の心配のみを質問するため、事故直後に関する表現を削除したい。

(討議・委員コメント)

- ・問6の注釈について、「石油や石炭と違い」という文言があるが、原子力発電の優位性を主張しているように取られる可能性がある。
→その部分を削除する。
- ・問17について、現在、「放射性廃棄物」というと、事故関連の廃棄物と混同されてしまう恐れがある。従って、「高レベル放射性廃棄物」と明確に事故と分けられるような表現の方が良い。また、注釈についても、使用済み核燃料の処理について検討されていることを入れた方が良い。
→そのように修正する。
- ・問22,23に関しては、「現在心配していること」等、「現在」という言葉を入れた方がわかりやすいのではないか。
→そのように修正する。

- ・政府の意志決定過程に関する信頼が落ち込んでいるように感じる。問13の後あたりに「政策の決め方」の信頼を調査することはできないか。
→その質問を追加する。

4. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」クロス集計軸について(p.271-275)

配布資料⑦「平成23年度原子力利用に関する世論調査」クロス集計軸(案)に基づき、クロス集計を行う項目について説明した。

p.271～272のクロス集計軸は、自動的に集計される項目と経年変化観察のために毎年実施している項目であるため、説明を割愛させていただく。

p.273では、今年度は、専門家、原子力関係者、国、自治体に対する信頼を重点的に分析するための軸として、問11-1、問13-1でクロス集計を行いたい。問11-1では「信頼できる層(信頼できる+どちらかと言えば信頼できる)」「どちらとも言えない層」「信頼できない層(信頼できない+どちらかといえば信頼できない)」に分けてクロス集計を行う。なお、分類に関しては問13-1も同様に行う。

他の重点項目として、「原子力に対する態度」があるため、問20-1の「石炭火力発電」「石油火力発電」「天然ガス火力発電」「原子力発電」「水力発電」「地熱発電」「風力発電」「太陽光発電」「廃棄物発電」「バイオマス発電」「その他」の各選択肢を軸にクロス集計を行う。また、問10-bでは「必要である層(必要+どちらかといえば必要)」「どちらともいえない層」「不要である層(必要でない+どちらかといえば必要でない)」を軸にクロス集計を行いたい。問20-1に関しては、「原子力発電」とチェックした人を軸としてクロス集計を行いたい。

他の集計軸としては、原子力発電への態度に関連していると思われる設問を軸としたい。問6で選択した数によって、放射線に関する「知識が多い層」「知識が中程度の層」「知識が少ない層」「知識がない層(「その他」「あてはまるものはない)を選択)」に分類し、クロス集計を行いたい。同じく、問7-1、7-2で選択した数によって原子力やエネルギー、放射線に関する「関心が高い層(選択肢の合計が10～31)」「関心が中程度の層(選択肢の合計が6～9)」「関心が低い層(選択肢の合計が1～5)」に分類してクロス集計を行いたい。また、問22の回答は、福島第一に関する情報収集に「積極的な層(積極的に得ようとした+どちらかといえば積極的に得ようとした)」「どちらともいえない層」「消極的な層(どちらかといえば消極的+消極的)」に分類してクロス集計を行いたい。問23の福島第一事故に関する「心配が多い層」「心配が中程度の層」「心配が少ない層」「心配がない層(その他、あてはまるものはない)」を軸にクロス集計を行いたい。

尚、全ての軸を表側に取り、集計は全質問にクロス集計する予定である。また、問6と問23で分類する指標については、現在調査会社に確認中である。

(討議・委員コメント)

・例えば、調査票が本のような経常の場合、ページをめくったときに 2 枚一緒にめくってしまい、見開きが全て空欄で、そのページ以外はすべて回答している、というケースもある。従って、「わからない」という選択肢がある設問に関しては、「わからない」と「無回答」を別に扱った方がよい。

5. 「平成24年度原子力利用に関する世論調査」

アウトプットレポートイメージ(案)について(p.276-277)

アウトプットレポートイメージ(案)配布資料⑧に基づき、「平成24年度原子力利用に関する世論調査」アウトプットレポートイメージ(案)について説明した。

前年度までは、1 ページにその年の調査における性、年代、地域等の分析と経年変化のパレート図を掲載していたため、その年の調査の分析と経年変化の違いがわかりづらいものとなっていた。

そこで、今年度より、その年の調査結果の性、年代、地域等の分析と経年変化を別の章立てとする。性、年代、地域等の分析のアウトプットについては前年度までと同様にする。

経年変化のアウトプットについては、4 つに類型化できると考えている。基本的な四択については、パレート図で表す。複数回答且つ回答をカテゴリズ出来る場合、全体の回答数を示した形のパレート図とする。複数回答であるが、「～について知っている、知らない」等、二択の設問として処理できるものについては、線グラフで表現する。複数回答で選択肢の数が多すぎて、線グラフでは読みとりにくくなってしまう場合、棒グラフで表現する。

第1回 WG 委員会はこれで終了する。第2回 WG 委員会は1月中旬に開催したいと考えている。

**「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
第 1 回WG委員会 議事次第**

と き：平成 24 年 10 月 23 日（火）
10:00～12:00
ところ：東京大学第一本部棟会議室

- 10:00 開会
- 10:00～10:05 財団挨拶（事務局）
- 10:05～10:15 世論調査 概要について（事務局）
- 10:15～10:25 審議（委員）
- 10:25～10:40 世論調査 質問改訂について（事務局）
- 10:40～11:20 審議（委員）
- 11:20～11:30 集計方法、分析方法、アウトプットレポートについて（事務局）
- 11:30～12:00 審議（委員）
- 12:00 閉会

配布資料

1. 議事次第
2. 出席者名簿
3. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」概要
4. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」修正前調査票
5. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」調査票改訂のポイント
6. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」調査票改訂（案）
7. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」クロス集計軸（案）
8. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」アウトプットレポート（案）

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
第 1 回WG委員会
出席者名簿

【委員】(50 音順・敬称略)

飯本 武志 東京大学環境安全本部 准教授
木村 浩 東京大学大学院工学系研究科 准教授
齋藤 朗 社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部長
富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

【事務局】

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・専務理事
船越 誠 日本原子力文化振興財団・企画部長
河崎 由美子 日本原子力文化振興財団・企画部副部長
鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・企画部
白須 桐紀 日本原子力文化振興財団・企画部

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」概要

(1) 目的

原子力技術は、産業や日常生活等さまざまな分野で利用されており、我々は、日々その恩恵を受けて生活を営んでいる。しかしながら、原子力の分野においては、事故や災害等トピックスとなる出来事があるごとに、原子力に対する世論が大きく変動する傾向にある。

そのため、本調査の目的は全国規模の世論調査を経年的、定点的に実施し、原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握することにより、様々なステークホルダーが、原子力に関する知識の普及活動のあり方等を検討するために、情報の受け手が求めている情報を確実に伝える手法等に関する知見を得ることである。

また、調査結果を統計的に分析・考察した知見を、様々なステークホルダーが活用できる情報発信方法についても検討する。

(2) 調査内容

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故以来、世論の「原子力」や「放射線」に対する不安は高まっており、昨年度の調査では、原子力を不必要と考える層が増加していることや、国、専門家に対する信頼が低下していることを、具体的な数値として把握することができた。

今年度調査では事故以前に比べて国、事業者、専門家、原子力発電に対する信頼が低下したことを受け、クロス集計をより詳しく行い、どの要素が関連しているかを分析する。

また、事故前に調査を 3 回行い、事故後の調査は今年度も含めると 2 回行うことになるから、データが十分に集まったと考え、事故を契機とした世論の推移をまとめらる。

1) 質問票の設計

福島第一原子力発電所事故の影響及び質問項目を見直すとともに、意味や意図が伝わりにくかった質問項目について、文言、表現の調整を行う等、質問項目を改良する。また、今年度実施する必要性が低いと考えられる質問については削除する。

基本的な質問項目は、以下の通り 30 問程度とする。

【質問項目 (案)】

- ・属性
- ・原子力に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・放射線に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・エネルギーに関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・環境問題に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・科学技術に関するイメージ、意識、知識、関心事、態度
- ・エネルギー・原子力の情報源（媒体）とその信頼性
- ・原子力に携わる人（専門家、電気事業者、自治体、公益法人、NPO 等）への期待
- ・原子力に携わる専門家や原子力関係者への信頼

- ・国や自治体による原子力の安全管理への信頼
- ・原子力、放射線、エネルギーについて受け手が欲する情報
- ・原子力の平和利用に対する態度
- ・原子力のベネフィット認知
- ・原子力のリスク認知
- ・原子力・エネルギーに関するトピックス認知、評価
- ・福島第一原子力発電所事故に対する意識、知識、態度等々

2) サンプルングと調査実施

1) で設計した質問票を使用し、「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」を実施する。実施にあたっては、全国から代表的な対象地域を 200 ヶ所選定した上で、住宅地図データベースより世帯を抽出し個人を割当て、専門調査員による戸別訪問留置き調査を行う。なお、回収サンプル数は 1200 人とし、実施期間は平成 24 年 10 月 31 日～11 月 12 日を予定する。

世論調査の回答は専用端末にデータとして入力する。ただし、自由回答については、テキスト形式のデータとして入力する。

3) 調査結果の分析

① データの分析

調査結果の一次集計として単純集計と、属性や関連する質問項目間のクロス集計を行い経年変化の分析を行う。また、集計結果に基づき、「原子力・放射線・エネルギーに対するイメージと知識」「原子力・放射線・エネルギーについての関心」「現状の原子力広報の効果」「環境・原子力・放射線に対するリスク認知」「原子力に対するベネフィット認知」等の観点から考察する。

② 分析の重点項目

基本集計分析と経年変化の分析に加え、国、事業者、専門家に対する信頼、原子力発電に対する態度がどのような要素と関連しているか、詳細に分析する。

4) 考察

今年度実施した世論調査の集計結果及び分析結果における属性別の傾向や課題を明らかにするとともに、情報の受け手が求めている情報を確実に伝える手法等を検討し、原子力の平和利用に関する知識の普及活動のあり方について考察する。

なお、本調査の結果については、さまざまなステークホルダーに活用していただくための情報発信方法についても検討する。

5) WG 委員会の設置と調査内容の検討

以上の考察や検討にあたっては、原子力に係わる広報やリスク・コミュニケーションの専門家で構成する WG 委員会を設置し、世論調査の計画から実施、分析結果の検討、適切な広報のあり方の検討にいたるまで、内容を吟味する。

テーマ:「日本のエネルギー事情」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 あなたは石油の可採年数※1はどのくらいだと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 約20年 2 約40年 3 約60年 4 約80年

＜※1可採年数＞石炭、石油、天然ガス、ウランなどの資源は、量に限りがあり、現在存在が確認され、生産され得る資源(確認可採埋蔵量)を、今までのように使い続けたら、あと何年くらい使い続けることができるかを示しています。

【すべての方に】

問2 あなたは二酸化炭素などのガスの増加によって地球温暖化が起きると言われていることをご存知ですか。(○は1つだけ)

- 1 詳しい内容まで知っている 2 ある程度の内容は知っている 3 知らない

【すべての方に】

問3 あなたは東日本大震災以前に日本の発電電力量の約何割を原子力が担っていたと思いますか。

(○は1つだけ)

- 1 約1割 2 約3割 3 約5割 4 約7割

【すべての方に】

問6 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--|
| 1 自然界にある放射線について | 5 原子力発電と原子爆弾の違い |
| 2 放射線と放射能の違い | 6 プルサーマル ^{*2} や核燃料サイクル ^{*3} のしくみ |
| 3 様々な分野での放射線の利用 | 7 どれも知らない |
| 4 放射線の量と人体への影響の関係 | |

＜※2プルサーマル＞ 使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び現在運転中のタイプの原子力発電所の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。

＜※3核燃料サイクル＞ 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは石油や石炭と違い、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

【すべての方に】

問7-1 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 13 放射線の医療利用 |
| 2 地球温暖化 | 14 放射線の農業利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 15 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 16 高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ |
| 5 太陽光発電の開発状況 | 17 「もんじゅ」の安全性 |
| 6 風力発電の開発状況 | 18 核燃料の製造加工 |
| 7 バイオマス発電の開発状況 | 19 省エネルギー |
| 8 核分裂のしくみ | 20 放射性廃棄物の処分 |
| 9 原子力発電の安全性 | 21 使用済燃料の貯蔵 |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 22 原子力施設のリスク（事故・トラブルなど） |
| 11 放射線による人体の影響 | 23 その他（具体的に： ） |
| 12 放射線の工業利用 | 24 特にない／わからない |

【すべての方に】

問7-2 放射線利用の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 プラスチックの強化 | 6 CT スキャン |
| 2 花や植物の品種改良 | 7 非破壊検査 |
| 3 ガン治療 | 8 レントゲン |
| 4 食品への照射 | 9 医療器具などの滅菌 |
| 5 年代測定 | 10 その他（具体的に： ） |
| | 11 特にない／わからない |

【すべての方に】

問8-1 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 インターネット	6 雑誌
2 ラジオ	7 本・パンフレット
3 博物館・展示館・PR施設	8 その他(具体的に:)
4 新聞	9 あてはまるものはない
5 テレビ	

【すべての方に】

問8-2 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

1 政府関係者
2 専門家(大学教員・研究者)
3 評論家(キャスターなども含む)
4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
5 自治体職員
6 小・中・高等学校の教員
7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
8 新聞・雑誌などの記者
9 オピニオンリーダー(身近な知識人)
10 政治家
11 知人や友人
12 家族や親戚
13 その他(具体的に:)
14 あてはまるものはない/この1年間に有益性に関する情報は得ていない

【すべての方に】

問8-3 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

※テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

- 1 政府関係者
- 2 専門家(大学教員・研究者)
- 3 評論家(キャスターなども含む)
- 4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
- 5 自治体職員
- 6 小・中・高等学校の教員
- 7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
- 8 新聞・雑誌などの記者
- 9 オピニオンリーダー(身近な知識人)
- 10 政治家
- 11 知人や友人
- 12 家族や親戚
- 13 その他(具体的に: _____)
- 14 あてはまるものはない/この1年間に事故やトラブルなどに関する情報は得ていない

【すべての方に】

問9-1 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

【参加してみたいものはどれですか】

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)

【理解に役立つものはどれですか】

- 9 書籍
- 10 パンフレット
- 11 ビデオ・DVD
- 12 メール配信
- 13 インターネット
- 14 新聞広告・記事
- 15 テレビCM・番組
- 16 ラジオCM・番組
- 17 学校の授業
- 18 その他(具体的に: _____)
- 19 あてはまるものはない

【問9-1で「13 インターネット」とお答えの方に】

問9-2 原子力やエネルギーに関する理解に役立つ情報源として、具体的にどのサイトを閲覧していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 Yahoo!や Google 等の検索エンジン
- 2 インターネット上のニュースサイト
- 3 YouTube やニコニコ動画等の動画サイト
- 4 mixi や Facebook 等のソーシャルネットワーキングサービス
- 5 2ちゃんねる等の掲示板
- 6 ブログ
- 7 ツイッター
- 8 国のホームページ
- 9 自治体のホームページ
- 10 研究機関のホームページ
- 11 その他(具体的に: _____)
- 12 あてはまるものはない

配布資料 4 改訂前調査票

【すべての方に】

問10 あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1ずつ)

		必要である	どちらかといえれば必要である	どちらともいえない	どちらかといえれば必要でない	必要でない
a) 医療、工業、農業等における放射線利用	→	1	2	3	4	5
b) 原子力発電	→	1	2	3	4	5
c) 核燃料サイクル	→	1	2	3	4	5
d) プルサーマル	→	1	2	3	4	5
e) 世界唯一の被爆国として、原子力技術を平和利用に限ること、原子力利用の安全を確保することについて、もっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
f) 原子力の平和利用を広報する組織は、原子力の軍事利用の反対をもっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
g) できるだけたくさんの情報が国民に届くようにすること	→	1	2	3	4	5
h) わかりやすく情報を伝えること	→	1	2	3	4	5
i) 学校の授業で教えること	→	1	2	3	4	5
j) 些細なことでも隠さず伝えること	→	1	2	3	4	5
k) 都合の悪いことでも情報を外部(マスコミや国民など)に伝えること	→	1	2	3	4	5
l) 暮らしの中で活用する原子力の平和利用	→	1	2	3	4	5
m) 地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること	→	1	2	3	4	5
n) 化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5
o) エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5

【すべての方に】

問11-1 あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問11-2 あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 情報公開が十分されているから |
| 2 情報公開が十分されていないから |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから |
| 4 大きな事故が起きたから |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 7 専門的な知識を持っている人だから |
| 8 専門家にも間違いはあるから |
| 9 信頼したいから |
| 10 信頼できないから |
| 11 その他(具体的に: _____) |

【すべての方に】

問12 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。

次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 国 |
| 2 自治体 |
| 3 電力会社などの事業者 |
| 4 大学や研究所 |
| 5 財団法人、社団法人などの公益法人 |
| 6 非営利組織(NPO) |
| 7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関 |
| 8 その他(具体的に: _____) |
| 9 あてはまるものはない |

【すべての方に】

問13-1 原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問13-2 あなたが、問13-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 情報公開が十分されているから |
| 2 情報公開が十分されていないから |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから |
| 4 大きな事故が起きたから |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 7 専門的な知識を持っている人だから |
| 8 専門家にも間違いはあるから |
| 9 信頼したいから |
| 10 信頼できないから |
| 11 国や公的機関は営利目的ではないから |
| 12 自分達の利益優先に感じるから |
| 13 その他(具体的に:) |

【すべての方に】

問14 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 事故原因の徹底究明 | 8 見学会や説明会の開催 |
| 2 情報公開 | 9 展示館の設置 |
| 3 事故に対する未然防止策 | 10 地域振興 |
| 4 職員の姿勢 | 11 放射線管理の徹底 |
| 5 実務の公開 | 12 検査体制の強化 |
| 6 安全管理規制の強化 | 13 その他(具体的に:) |
| 7 責任の所在の明確化 | 14 特にない/わからない |

配布資料 4 改訂前調査票

【すべての方に】

問15 日本の原子力技術のうち、あなたが信頼しているものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 発電	6 非破壊検査
2 放射線の医療利用 (レントゲン、ガン治療、滅菌など)	7 食品照射
3 放射線の農業利用 (品種改良、害虫駆除など)	8 放射性廃棄物の処分
4 年代測定	9 核燃料サイクル技術
5 放射線の工業利用 (耐火ビニール、強化プラスチック)	10 その他(具体的に:)
	11 特にない/わからない

【すべての方に】

問16 あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 大地からの放射線	5 医療で受ける放射線
2 宇宙からの放射線	6 原子力関連施設周辺の放射線
3 食物からの放射線	7 その他(具体的に:)
4 空気中のラドンからの放射線	8 あてはまるものはない
	9 不安はない

【すべての方に】

問17 現在、放射性廃棄物の処分※4について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

1 安心	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不安
2 どちらかといえば安心		5 不安

＜※4放射性廃棄物の処分＞ 原子力発電所で使い終わった燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。

【すべての方に】

問18 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|--|---|
| <p>1 物事の判断は直感的・感覚的だ</p> <p>2 精神的な豊かさの方が物質的豊かさより大切</p> <p>3 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない</p> <p>4 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい</p> <p>5 ゴミ処理や原子力発電などの問題は専門家による委員会決定されるべき</p> <p>6 住民にとって重要な選択をするときは住民投票で決定されるべき</p> | <p>7 少しらい生活が不便でも、省エネルギーは実践されるべき</p> <p>8 夏はクールビズに積極的に協力すべき</p> <p>9 科学技術が発展することで、人は豊かになる</p> <p>10 高度な技術も科学技術で完全に制御できる</p> <p>11 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない</p> <p>12 新しい技術導入に事故はつきもの</p> <p>13 その他(具体的に: _____)</p> <p>14 あてはまるものはない</p> |
|--|---|

【すべての方に】

問19 次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | | |
|----|----------|--|
| 1 | 2010年9月 | ドイツが脱原発方針を軌道修正。2021年以降の原子炉稼働延長を決定 |
| 2 | 2010年10月 | 日本がベトナムの原子力発電所2基の建設を受注 |
| 3 | 2010年12月 | 日本と韓国が日韓原子力協定を締結。同国への部品輸出を視野に |
| 4 | 2011年3月 | 東北地方太平洋沖地震の影響で東京電力・福島第一原子力発電所で事故が発生 |
| 5 | 2011年3月 | 福島第一原発事故による避難地域を半径10km圏内から20km圏内に拡大 |
| 6 | 2011年5月 | 菅首相の要請で中部電力が浜岡原子力発電所(静岡県)の全原子炉を停止 |
| 7 | 2011年5月 | 国際原子力機関(IAEA)の調査団が来日し、福島第一原発を視察 |
| 8 | 2011年7月 | ドイツで脱原発法案が成立。2022年までに国内全原子力発電所の閉鎖を決定 |
| 9 | 2011年7月 | 福島第一原発で原子炉・燃料プールの安定冷却(事故収束への第1ステップ)を達成 |
| 10 | 2011年7月 | 出荷された牛肉から国の暫定規制値を超える放射性セシウムを検出 |
| 11 | 2011年8月 | 北海道電力・泊原子力発電所3号機が東日本大震災後、全国初の運転再開 |
| 12 | 2011年8月 | 政府が福島第一原発事故で生じた放射性物質の除去に関する方針を発表 |
| 13 | 2011年9月 | 福島第一原発の全原子炉内の温度が100℃以下となる |
| 14 | 2011年9月 | 東京電力・東北電力管内における大企業等への電力使用制限令が解除される |
| 15 | | どれも知らない |

【すべての方に】

問20-1 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)

1	石炭火力発電	
2	石油火力発電	
3	天然ガス火力発電	
4	原子力発電	
5	水力発電	
6	地熱発電	
7	風力発電	
8	太陽光発電	
9	廃棄物発電	
10	バイオマス発電	
11	その他(具体的に:)
12	あてはまるものはない	

【すべての方に】

問20-2 あなたが問20-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(〇はいくつでも)

1	エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要だから	
2	日本にはエネルギー資源が少ないから	
3	化石燃料には限りがあるから	
4	二酸化炭素を排出せず、温暖化防止に役立つから	
5	発電価格(コスト)の面で有利だから	
6	自然エネルギーだから	
7	国産のエネルギーを増やすことは重要だから	
8	安全そうだから	
9	よく聞くから	
10	自然の力を利用すべきだから	
11	枯渇の心配がないから	
12	その他(具体的に:)
13	あてはまるものはない	

【すべての方に】

問21 日本の原子力利用は、原子力発電や放射線利用等、平和利用の分野に限っており、これらを支えるために政策・規制・技術などのしくみ※5があります。
あなたはこのしくみについて信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | | 5 信頼できない |

<※5政策・規制・技術などのしくみ>
原子力や放射線を安全に利用するしくみ
テロに利用されないよう、核物質を安全に管理するしくみ
原子力発電の燃料を兵器に転用させないしくみ
人や環境への影響を防ぐしくみ

【すべての方に】

問22 あなたは、東京電力(株)・福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を積極的に得ようとしたか。(○は1つだけ)

- | | | |
|----------------------|-------------|---------------|
| 1 積極的に得ようとした | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば消極的 |
| 2 どちらかといえば積極的に得ようとした | | 5 消極的 |

【すべての方に】

問23 東京電力(株)・福島第一原子力発電所事故に関連して心配したこと、心配していることは何ですか。事故の直後(3月下旬頃)と現在で、あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

【事故の直後(3月下旬頃)に心配したことは何ですか】

- 1 放射性物質による食品への影響
- 2 放射性物質による環境への影響
- 3 放射性物質による健康への影響
- 4 居住地の安全性
- 5 事故被災者の生活や仕事
- 6 事故の収束
- 7 風評被害
- 8 電気料金の値上げ
- 9 電力不足
- 10 全国の原子力発電所の安全対策
- 11 日本経済への影響
- 12 日本の温暖化対策
- 13 日本のエネルギー政策
- 14 海外からの日本に対する評価
- 15 その他(具体的に: _____)
- 16 事故の直後(3月下旬頃)に心配したことはない

【現在心配していることは何ですか】

- 17 放射性物質による食品への影響
- 18 放射性物質による環境への影響
- 19 放射性物質による健康への影響
- 20 居住地の安全性
- 21 事故被災者の生活や仕事
- 22 事故の収束
- 23 風評被害
- 24 電気料金の値上げ
- 25 電力不足
- 26 全国の原子力発電所の安全対策
- 27 日本経済への影響
- 28 日本の温暖化対策
- 29 日本のエネルギー政策
- 30 海外からの日本に対する評価
- 31 その他(具体的に: _____)
- 32 現在心配していることはない

【すべての方に】

問24 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段などに対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
調査票改訂のポイント

問6 注釈	改訂前	使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び現在運転中のタイプの原子力発電所の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。
	改訂後	<u>原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。</u> ※「現在運転中」という表現を修正
問19	改訂前	次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。 2010年9月～2011年9月のニュースを14個掲載
	改訂後	次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。 ※2011年10月～2012年9月のニュースを12個程度掲載(次ページを参照)
問22	改訂前	あなたは、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を積極的に得ようとしたか。
	改訂後	あなたは、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を積極的に <u>得ようとしていますか。</u> ※調査時の積極性を聞くために表現を修正
問23	改訂前	東京電力(株)福島第一原子力発電所に関連して心配したこと、心配していることは何ですか。事故の直後(3月下旬頃)と現在で、あてはまるものをすべてお選びください。
	改訂後	東京電力(株)福島第一原子力発電所に関連して心配していることは何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。 ※調査時の心配のみを聞くために事故直後に関する表現を削除

配布資料 5 調査票改訂のポイント

	問 19 事務局案	カテ ゴリ
1	2011年10月 国際原子力機関(IAEA)専門家が福島県を訪れ除染試験を視察	事故
2	2011年10月 韓国に大統領直属の原子力安全委員会が発足	規制
3	2011年11月 経済産業省が核燃料サイクル関連施設などをストレステストの対象に追加	核サイ
4	2011年12月 野田政権が福島第一原発事故の収束(冷温停止状態の達成)を宣言	事故
5	2012年1月 原子炉40年廃炉を盛り込んだ原子炉等規制法改正案が閣議決定	規制
6	2012年2月 アメリカの原子力規制委員会が34年ぶりの原発新設を許可	規制
7	2012年2月 民間事調査委員会が福島第一原発事故の調査・検証報告書を取りまとめ	事故
8	2012年3月 政府が再生可能エネルギーの普及策をエネルギー・環境会議で決定	再生 エネ
9	2012年4月 食品中の放射性物質に関する新基準値の適用が開始	規制
10	2012年5月 泊原発(北海道)3号機が定期点検に入り、全国の原子力発電が全て停止	安定 供給
11	2012年5月 原子力委員会が使用済み核燃料処理方法を変更したコスト試算結果を公表	核サイ
12	2012年6月 原子力規制委員会設置法が成立	規制
13	2012年6月 政府が大飯原発(福井県)3、4号機の再稼動を決定	安定 供給
14	2012年7月 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の適用が開始	再生 エネ
15	2012年7月 事故調査・検証委員が福島第一原発事故の最終報告書を野田総理に提出	事故
16	2012年8月 大飯原発(福井県)3号機が営業運転を開始	安定 供給
17	2012年9月 2030年代の原発ゼロを目標とする「革新的エネルギー・環境戦略」を会議決定	再生 エネ
18	2012年9月 環境省の外局として原子力規制委員会が発足	規制

テーマ:「日本のエネルギー事情」についてお伺いします

【すべての方に】

問1 あなたは石油の可採年数※1はどのくらいだと思いますか。(○は1つだけ)

- 1 約20年 2 約40年 3 約60年 4 約80年

＜※1可採年数＞石炭、石油、天然ガス、ウランなどの資源は、量に限りがあり、現在存在が確認され、生産され得る資源(確認可採埋蔵量)を、今までのように使い続けたら、あと何年くらい使い続けることができるかを示しています。

【すべての方に】

問2 あなたは二酸化炭素などのガスの増加によって地球温暖化が起きると言われていることをご存知ですか。(○は1つだけ)

- 1 詳しい内容まで知っている 2 ある程度の内容は知っている 3 知らない

【すべての方に】

問3 あなたは東日本大震災以前に日本の発電電力量の約何割を原子力が担っていたと思いますか。
(○は1つだけ)

- 1 約1割 2 約3割 3 約5割 4 約7割

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問4 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 明るい	13 暗い
2 悪い	14 よい
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみやすい	16 親しみにくい
5 複雑	17 単純
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 不安	20 安心
9 必要	21 不必要
10 役に立たない	22 役に立つ
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気になる	24 気にならない
	25 その他(具体的に：)
	26 あてはまるものはない

【すべての方に】

問5 あなたは「放射線」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 暗い	13 明るい
2 よい	14 悪い
3 おもしろい	15 つまらない
4 親しみにくい	16 親しみやすい
5 単純	17 複雑
6 安全	18 危険
7 信頼できない	19 信頼できる
8 安心	20 不安
9 不必要	21 必要
10 役に立つ	22 役に立たない
11 わかりやすい	23 わかりにくい
12 気にならない	24 気になる
	25 その他(具体的に：)
	26 あてはまるものはない

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問6 以下にあげる事柄について、あなたをご存知のものはどれですか。
ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|--|
| 1 自然界にある放射線について | 5 原子力発電と原子爆弾の違い |
| 2 放射線と放射能の違い | 6 プルサーマル ^{*2} や核燃料サイクル ^{*3} のしくみ |
| 3 様々な分野での放射線の利用 | 7 どれも知らない |
| 4 放射線の量と人体への影響の関係 | |

<※2プルサーマル> 原子力発電の使用済燃料から回収したプルトニウムを、再び原子力発電(軽水炉)の燃料として利用することをプルサーマルと呼んでいます。

<※3核燃料サイクル> 原子力発電所はウランを燃料にして発電しますが、このウランは石油や石炭と違い、一度燃やした燃料を再処理することによって再び燃料として利用することができます。このしくみを核燃料サイクルと呼んでいます。

【すべての方に】

問7-1 原子力やエネルギーの分野において、あなたに関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| 1 石油や石炭など化石資源の消費 | 13 放射線の医療利用 |
| 2 地球温暖化 | 14 放射線の農業利用 |
| 3 世界のエネルギー事情 | 15 核不拡散 |
| 4 日本のエネルギー事情 | 16 高速増殖炉「もんじゅ」のしくみ |
| 5 太陽光発電の開発状況 | 17 「もんじゅ」の安全性 |
| 6 風力発電の開発状況 | 18 核燃料の製造加工 |
| 7 バイオマス発電の開発状況 | 19 省エネルギー |
| 8 核分裂のしくみ | 20 放射性廃棄物の処分 |
| 9 原子力発電の安全性 | 21 使用済燃料の貯蔵 |
| 10 プルサーマル・核燃料サイクル | 22 原子力施設のリスク(事故・トラブルなど) |
| 11 放射線による人体の影響 | 23 その他(具体的に:) |
| 12 放射線の工業利用 | 24 特になし/わからない |

【すべての方に】

問7-2 放射線利用の分野において、あなたに関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1 プラスチックの強化 | 6 CT スキャン |
| 2 花や植物の品種改良 | 7 非破壊検査 |
| 3 ガン治療 | 8 レントゲン |
| 4 食品への照射 | 9 医療器具などの滅菌 |
| 5 年代測定 | 10 その他(具体的に:) |
| | 11 特になし/わからない |

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問8-1 あなたは、ふだん原子力やエネルギーに関する情報を何によって得ていますか。

次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 インターネット	6 雑誌
2 ラジオ	7 本・パンフレット
3 博物館・展示館・PR施設	8 その他(具体的に:)
4 新聞	9 あてはまるものはない
5 テレビ	

【すべての方に】

問8-2 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「有益性に関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

※ テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

1 政府関係者
2 専門家(大学教員・研究者)
3 評論家(キャスターなども含む)
4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
5 自治体職員
6 小・中・高等学校の教員
7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
8 新聞・雑誌などの記者
9 オピニオンリーダー(身近な知識人)
10 政治家
11 知人や友人
12 家族や親戚
13 その他(具体的に:)
14 あてはまるものはない/この1年間に有益性に関する情報は得ていない

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問8-3 あなたは、この1年間に原子力やエネルギーに関して「事故やトラブルなどに関する情報」をどのような人の発言から得ましたか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

※テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどのメディアから得る、もしくは直接聞くかは問いません。

- 1 政府関係者
- 2 専門家(大学教員・研究者)
- 3 評論家(キャスターなども含む)
- 4 原子力関係者(電力会社・メーカー)
- 5 自治体職員
- 6 小・中・高等学校の教員
- 7 テレビ・ラジオなどのアナウンサー
- 8 新聞・雑誌などの記者
- 9 オピニオンリーダー(身近な知識人)
- 10 政治家
- 11 知人や友人
- 12 家族や親戚
- 13 その他(具体的に: _____)
- 14 あてはまるものはない/この1年間に事故やトラブルなどに関する情報は得ていない

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問9-1 以下に挙げている「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」の中で、参加してみたいもの、理解に役立つものはどれですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

【参加してみたいものはどれですか】

- 1 施設見学会
- 2 勉強会(専門家が講師として解説を行う)
- 3 工作教室
- 4 実験教室(計測器など機器を用いて実験や測定を行う)
- 5 趣味講座
- 6 講演会(少人数、双方向型)
- 7 講演会(大規模、パネリストによる討論会)
- 8 コンクール(作文やポスターなどのコンテスト)

【理解に役立つものはどれですか】

- 9 書籍
- 10 パンフレット
- 11 ビデオ・DVD
- 12 メール配信
- 13 インターネット
- 14 新聞広告・記事
- 15 テレビCM・番組
- 16 ラジオCM・番組
- 17 学校の授業
- 18 その他(具体的に: _____)
- 19 あてはまるものはない

【問9-1で「13 インターネット」とお答えの方に】

問9-2 原子力やエネルギーに関する理解に役立つ情報源として、具体的にどのサイトを閲覧していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 Yahoo!や Google 等の検索エンジン
- 2 インターネット上のニュースサイト
- 3 YouTube やニコニコ動画等の動画サイト
- 4 mixi や Facebook 等のソーシャルネットワーキングサービス
- 5 2ちゃんねる等の掲示板
- 6 ブログ
- 7 ツイッター
- 8 国のホームページ
- 9 自治体のホームページ
- 10 研究機関のホームページ
- 11 その他(具体的に: _____)
- 12 あてはまるものはない

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問10 あなたは、原子力に関する次の事柄について、必要性を感じますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○はそれぞれ1つずつ)

		必要である	どちらかといえ 必要である	どちらとも いえ ない	どちらかといえ ば 必要でない	必要でない
a) 医療、工業、農業等における放射線利用	→	1	2	3	4	5
b) 原子力発電	→	1	2	3	4	5
c) 核燃料サイクル	→	1	2	3	4	5
d) プルサーマル	→	1	2	3	4	5
e) 世界唯一の被爆国として、原子力技術を平和利用に限ること、原子力利用の安全を確保することについて、もっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
f) 原子力の平和利用を広報する組織は、原子力の軍事利用の反対をもっと訴えていくこと	→	1	2	3	4	5
g) できるだけたくさんの情報が国民に届くようにすること	→	1	2	3	4	5
h) わかりやすく情報を伝えること	→	1	2	3	4	5
i) 学校の授業で教えること	→	1	2	3	4	5
j) 些細なことでも隠さず伝えること	→	1	2	3	4	5
k) 都合の悪いことでも情報を外部(マスコミや国民など)に伝えること	→	1	2	3	4	5
l) 暮らしの中で活用する原子力の平和利用	→	1	2	3	4	5
m) 地球温暖化防止のために原子力発電を活用すること	→	1	2	3	4	5
n) 化石資源を使い切ることやオイルショックに備え、原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5
o) エネルギー資源をほとんど持たない日本において原子力を活用すること	→	1	2	3	4	5

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問11-1 あなたは、原子力に携わる専門家や原子力関係者を信頼できると思いますか。

(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問11-2 あなたが、問11-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 情報公開が十分されているから |
| 2 情報公開が十分されていないから |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから |
| 4 大きな事故が起きたから |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 7 専門的な知識を持っている人だから |
| 8 専門家にも間違いはあるから |
| 9 信頼したいから |
| 10 信頼できないから |
| 11 その他(具体的に: _____) |

【すべての方に】

問12 今後の安全な原子力の利用を続けていくために、どのような立場の人の活躍を期待しますか。

次の中から、あなたが期待している人をすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | |
|---------------------------------------|
| 1 国 |
| 2 自治体 |
| 3 電力会社などの事業者 |
| 4 大学や研究所 |
| 5 財団法人、社団法人などの公益法人 |
| 6 非営利組織(NPO) |
| 7 国際原子力機関(IAEA)、経済協力開発機構(OECD)などの国際機関 |
| 8 その他(具体的に: _____) |
| 9 あてはまるものはない |

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問13-1 原子力の安全管理や規制は国や自治体によって行なわれています。あなたは、国や自治体を信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | 5 信頼できない | |

【すべての方に】

問13-2 あなたが、問13-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(○はいくつでも)

- | |
|------------------------------|
| 1 情報公開が十分されているから |
| 2 情報公開が十分されていないから |
| 3 事故の経験を踏まえて安全対策を講じることができるから |
| 4 大きな事故が起きたから |
| 5 管理体制や安全対策が十分だから |
| 6 管理体制や安全対策が不十分だから |
| 7 専門的な知識を持っている人だから |
| 8 専門家にも間違いはあるから |
| 9 信頼したいから |
| 10 信頼できないから |
| 11 国や公的機関は営利目的ではないから |
| 12 自分達の利益優先に感じるから |
| 13 その他(具体的に:) |

【すべての方に】

問14 原子力の安全管理を国や自治体に安心して任せるためには、どういった点が配慮されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1 事故原因の徹底究明 | 8 見学会や説明会の開催 |
| 2 情報公開 | 9 展示館の設置 |
| 3 事故に対する未然防止策 | 10 地域振興 |
| 4 職員の姿勢 | 11 放射線管理の徹底 |
| 5 実務の公開 | 12 検査体制の強化 |
| 6 安全管理規制の強化 | 13 その他(具体的に:) |
| 7 責任の所在の明確化 | 14 特にない/わからない |

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問15 日本の原子力技術のうち、あなたが信頼しているものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 発電	6 非破壊検査
2 放射線の医療利用 (レントゲン、ガン治療、滅菌など)	7 食品照射
3 放射線の農業利用 (品種改良、害虫駆除など)	8 放射性廃棄物の処分
4 年代測定	9 核燃料サイクル技術
5 放射線の工業利用 (耐火ビニール、強化プラスチック)	10 その他(具体的に:)
	11 特にない/わからない

【すべての方に】

問16 あなたが、放射線に対し感じる不安についてお伺いします。次の中から不安に思うものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 大地からの放射線	5 医療で受ける放射線
2 宇宙からの放射線	6 原子力関連施設周辺の放射線
3 食物からの放射線	7 その他(具体的に:)
4 空気中のラドンからの放射線	8 あてはまるものはない
	9 不安はない

【すべての方に】

問17 現在、放射性廃棄物の処分※4について検討が行なわれています。あなたは、そのことについてどのように感じますか。(○は1つだけ)

1 安心	3 どちらともいえない	4 どちらかといえば不安
2 どちらかといえば安心		5 不安

＜※4放射性廃棄物の処分＞ 原子力発電所で使い終わった燃料から、リサイクルできるウランやプルトニウムを取り出すと、放射能レベルの高い廃液(高レベル放射性廃棄物)が残ります。高レベル放射性廃棄物は、ガラス素材と混ぜてステンレス製の容器に密封し、30年～50年ほど冷やした後、私たちの生活環境に影響がないように、地下300mより深いところにある地層に埋設処分する計画が進行中です。現在、最終処分場の建設地を全国の市町村から公募しています。

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問18 科学技術、環境などに対する、あなたご自身のお考えについてお伺いします。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

1 物事の判断は直感的・感覚的だ	7 少しらい生活が不便でも、省エネルギーは実践されるべき
2 精神的な豊かさの方が物質的豊かさより大切	8 夏はクールビズに積極的に協力すべき
3 便利な生活には、ある程度の破壊も仕方がない	9 科学技術が発展することで、人は豊かになる
4 ローリスク・ローリターンよりハイリスク・ハイリターンの方がよい	10 高度な技術も科学技術で完全に制御できる
5 ゴミ処理や原子力発電などの問題は専門家による委員会決定されるべき	11 どんな科学技術を利用したとしてもリスクはゼロにはできない
6 住民にとって重要な選択をするときは住民投票で決定されるべき	12 新しい技術導入に事故はつきもの
	13 その他(具体的に:)
	14 あてはまるものはない

【すべての方に】

問19 次にあげる原子力やエネルギーにまつわるニュースをご存知でしたか。ご存知のものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

2011.10～2012.9 までのニュースから 1 2 問程度ピックアップ (別紙)
1 どれも知らない

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問20-1 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|------------|---|
| 1 | 石炭火力発電 | |
| 2 | 石油火力発電 | |
| 3 | 天然ガス火力発電 | |
| 4 | 原子力発電 | |
| 5 | 水力発電 | |
| 6 | 地熱発電 | |
| 7 | 風力発電 | |
| 8 | 太陽光発電 | |
| 9 | 廃棄物発電 | |
| 10 | バイオマス発電 | |
| 11 | その他(具体的に: |) |
| 12 | あてはまるものはない | |

【すべての方に】

問20-2 あなたが問20-1でそう答えた理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(〇はいくつでも)

- | | | |
|----|-------------------------------|---|
| 1 | エネルギーの安定供給のために多様なエネルギー源が必要だから | |
| 2 | 日本にはエネルギー資源が少ないから | |
| 3 | 化石燃料には限りがあるから | |
| 4 | 二酸化炭素を排出せず、温暖化防止に役立つから | |
| 5 | 発電価格(コスト)の面で有利だから | |
| 6 | 自然エネルギーだから | |
| 7 | 国産のエネルギーを増やすことは重要だから | |
| 8 | 安全そうだから | |
| 9 | よく聞くから | |
| 10 | 自然の力を利用すべきだから | |
| 11 | 枯渇の心配がないから | |
| 12 | その他(具体的に: |) |
| 13 | あてはまるものはない | |

配布資料 6 平成 24 年度調査票改訂(案)

【すべての方に】

問21 日本の原子力利用は、原子力発電や放射線利用等、平和利用の分野に限っており、

これらを支えるために政策・規制・技術などのしくみ※5があります。

あなたはこのしくみについて信頼できると思いますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------------|-------------|------------------|
| 1 信頼できる | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば信頼できない |
| 2 どちらかといえば信頼できる | | 5 信頼できない |

<※5政策・規制・技術などのしくみ>

原子力や放射線を安全に利用するしくみ

テロに利用されないよう、核物質を安全に管理するしくみ

原子力発電の燃料を兵器に転用させないしくみ

人や環境への影響を防ぐしくみ

【すべての方に】

問22 あなたは、東京電力(株)・福島第一原子力発電所事故や原子力・放射線についての情報を

積極的に得ようとしていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|------------------------|-------------|---------------|
| 1 積極的に得ようとしている | 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば消極的 |
| 2 どちらかといえば積極的に得ようとしている | | 5 消極的 |

【すべての方に】

問23 東京電力(株)・福島第一原子力発電所事故に関連して、心配していることは何ですか。
あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 放射性物質による食品への影響
- 2 放射性物質による環境への影響
- 3 放射性物質による健康への影響
- 4 居住地の安全性
- 5 事故被災者の生活や仕事
- 6 事故の収束
- 7 風評被害
- 8 電気料金の値上げ
- 9 電力不足
- 10 全国の原子力発電所の安全対策
- 11 日本経済への影響
- 12 日本の温暖化対策
- 13 日本のエネルギー政策
- 14 海外からの日本に対する評価
- 15 その他(具体的に:)
- 16 現在心配していることはない

【すべての方に】

問24 最後に原子力やエネルギー、放射線、またこれらに関する情報源、情報発信の手段など
に対するお考えがあればお書きください。(ご自由に)

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」

クロス集計軸【案】

【基本軸】 NOS 調査で自動的に出力される集計軸

- ・ 全質問にクロス

基本軸Ⅰ	基本軸Ⅱ	基本軸Ⅲ
【地域】 北海道・東北 関東 中部・北陸 近畿 中国・四国・九州	【職業】 農林漁業 自営・商工業 自由業 管理職 事務・技術職 労務・技能職 パート・アルバイト 主婦専業 学生 無職	【男性】 男性小計 15～19才 20～29才 30～39才 40～49才 50～59才 60～69才 70～79才
【都市規模】 20大都市 15万以上の都市 15万未満の都市 郡部	【世帯年収】 300万円未満 ～400万円未満 ～500万円未満 ～600万円未満 ～700万円未満 ～800万円未満 ～1000万円未満 ～1200万円未満 1200万円以上	【女性】 女性小計 15～19才 20～29才 30～39才 40～49才 50～59才 60～69才 70～79才
【性】 男性 女性		
【年齢】 15～19才 20～29才 30～39才 40～49才 50～59才 60～69才 70～79才		

配布資料 7 クロス集計軸(案)

【オプション集計軸 1】 レポート用の集計軸

- ・全質問にクロス

【性別】 男性 女性
【年代】 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代
【子どもの有無】 子供あり 子供なし
【原子力発電所立地・原子力発電所非立地】 立地県（北海道、青森、宮城、福島、茨城、新潟、静岡、石川、福井、 島根、愛媛、佐賀、鹿児島） 非立地県（上記以外）

配布資料 7 クロス集計軸(案)

【オプション集計軸 2】 専門家や原子力関係者に対する信頼／国や自治体に対する信頼

【専門家や原子力関係者に対する信頼 問 1 1 - 1】

信頼できる層（信頼できる+どちらかといえば信頼できる）

どちらともいえない層

信頼できない層（信頼できない+どちらかといえば信頼できない）

【国や自治体に対する信頼 問 1 3 - 1】

信頼できる層（信頼できる+どちらかといえば信頼できる）

どちらともいえない層

信頼できない層（信頼できない+どちらかといえば信頼できない）

※上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 3】 今後利用・活用していくべきエネルギー

<該当質問箇所>

石炭火力発電 問 2 0 - 1 = 1 に ON

石油火力発電 問 2 0 - 1 = 2 に ON

天然ガス火力発電 問 2 0 - 1 = 3 に ON

原子力発電 問 2 0 - 1 = 4 に ON

水力発電 問 2 0 - 1 = 5 に ON

地熱発電 問 2 0 - 1 = 6 に ON

風力発電 問 2 0 - 1 = 7 に ON

太陽光発電 問 2 0 - 1 = 8 に ON

廃棄物発電 問 2 0 - 1 = 9 に ON

バイオマス発電 問 2 0 - 1 = 1 0 に ON

その他 問 2 0 - 1 = 1 1 に ON

※ 上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 4】 原子力発電に対する態度

【原子力発電の必要性 問 1 0 (b)】

必要である層 (必要+どちらかといえれば必要)

どちらともいえない層

不要である層 (必要でない+どちらかといえれば必要でない)

【原子力発電の必要性 問 2 0】

原子力発電に○N

原子力発電が○F F

※ 上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 5】 放射線に関する知識の多さ

【放射線に関する知識 問 6 の選択肢合計】

知識が多い層 (選択肢の合計が○～○)

知識が中程度の層 (選択肢の合計が○～○)

知識が少ない層 (選択肢の合計が○～○)

知識がない層 (「その他」「あてはまるものはない」を選択)

※上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 6】 原子力やエネルギー、放射線に対する関心の高さ

【原子力やエネルギーに関する関心 問 7 - 1、問 7 - 2 の選択肢合計】

関心が高い層 (選択肢の合計が 1 0 ～ 3 1)

関心が中程度の層 (選択肢の合計が 6 ～ 9)

関心が低い層 (選択肢の合計が 1 ～ 5)

関心がない層 (「その他」「あてはまるものはない」を選択)

※上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 7】 福島第一事故に関する情報収集の積極性

【福島第一に関する情報収集の積極性 問 2 2】

積極的な層 (積極的に得ようとした+どちらかといえれば積極的に得ようとした)

どちらともいえない層

消極的な層 (どちらかといえれば消極的+消極的)

※上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

【オプション集計軸 8】 福島第一事故に関する心配の多さ

【福島第一事故に関する心配の多さ 問 2 3 の選択肢合計】

心配が多い層（選択肢合計が○～○）

心配が中程度の層（選択肢合計が○～○）

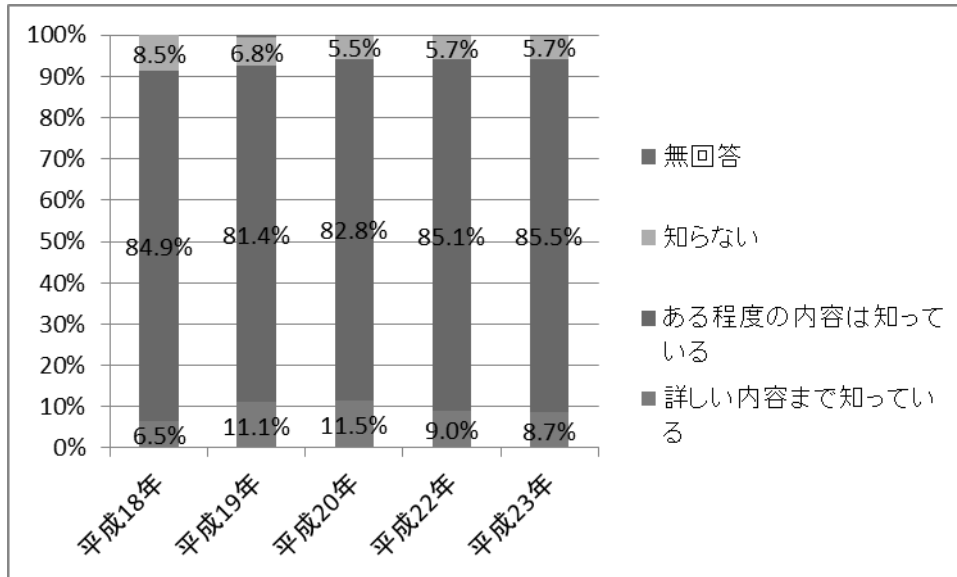
心配が少ない層（選択肢合計が○～○）

心配がない層（その他、あてはまるものはない）

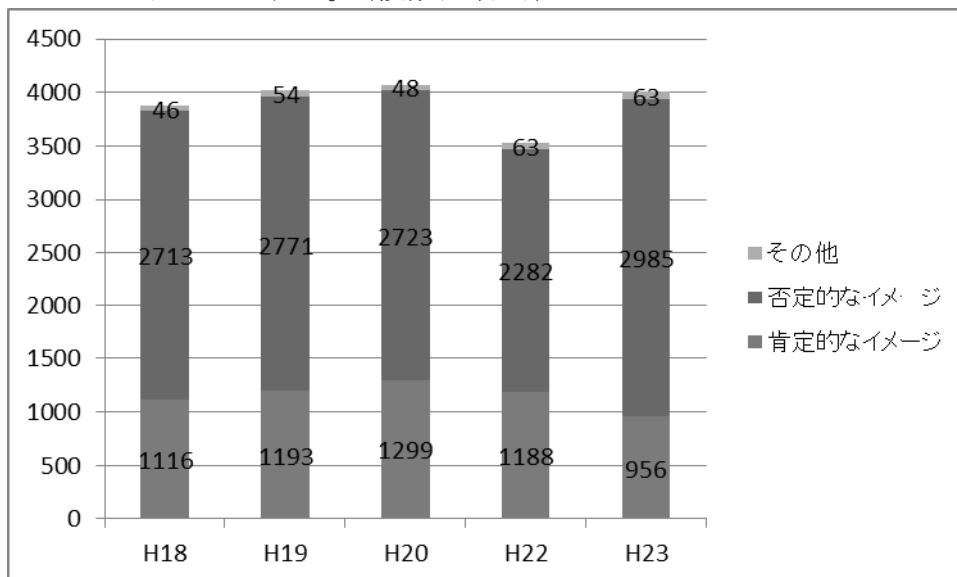
※上記を表側に取り、集計は全質問にクロス

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
アウトプットレポート (案)

類型 1 一つだけ選ぶ場合 (N=1,200 で固定され、単一選択の場合)
例) あなたは二酸化炭素などのガスの増加によって地球温暖化がおきるといわれていることをご存じですか? (回答は一つだけ)



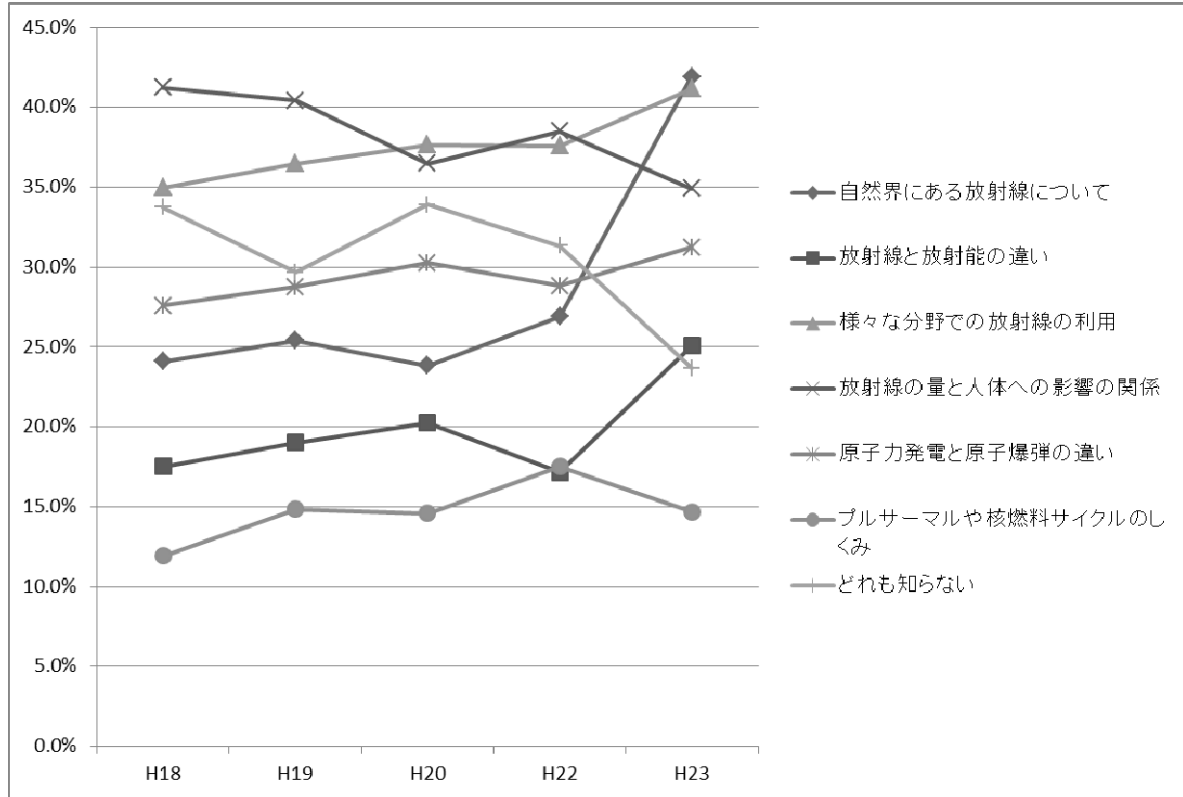
類型 2 複数回答可の場合 (N 数が不定、回答をカテゴリズできる場合)
例) あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。(複数回答可)



配布資料 8 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」アウトプットレポート(案)

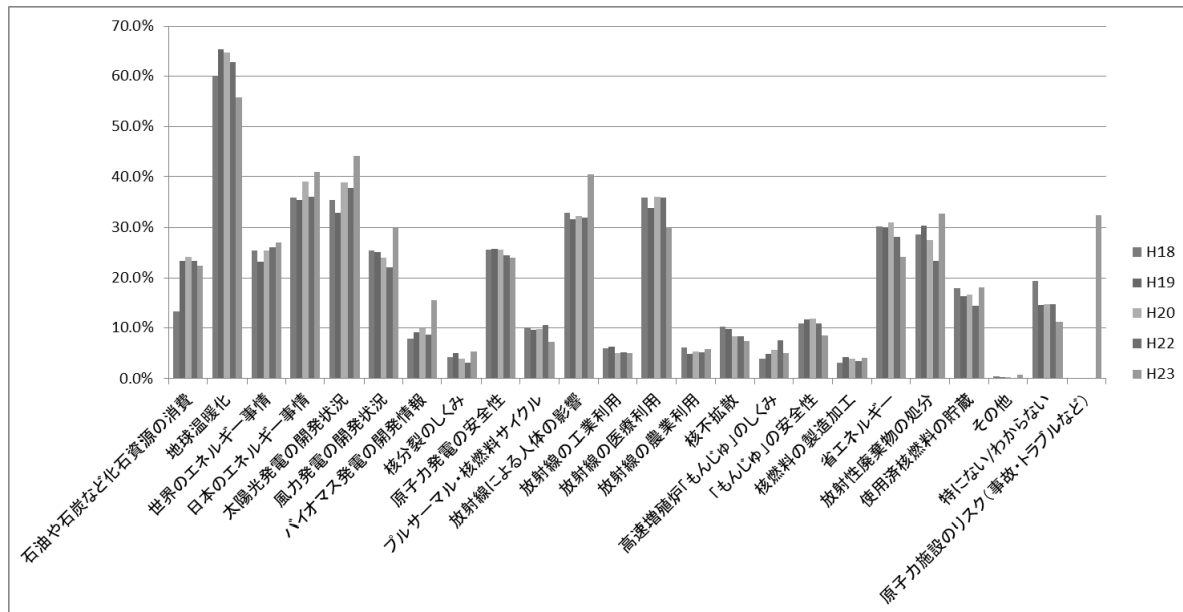
類型 3 複数回答ではあるが、N=1,200 で「～について知っている・知らない」の二択の設問として処理できるもの

例) 以下にあげる事柄について、あなたがお存じのものはどれですか。(複数回答可)



類型 4 系統数が多すぎて線グラフでは表現できないもの

例) 原子力やエネルギーの分野において、あなたが関心のあることはどれですか。(複数回答可)



6. 3 第2回WG委員会

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」 第2回WG委員会 議事録

日 時：平成 25 年 1 月 29 日(火) 19:00～21:00

場 所：東京大学第一本部棟会議室

出席者：

(委員)

飯本 武志	東京大学 環境安全本部 准教授
木村 浩	東京大学大学院工学系研究科 准教授
齋藤 朗	社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部 部長
富山 雅之	台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

(事務局)

横手 光洋	日本原子力文化振興財団・専務理事
船越 誠	日本原子力文化振興財団・企画部長
河崎 由美子	日本原子力文化振興財団・企画部副部長
鈴木 彩子	日本原子力文化振興財団・企画部

配付資料：

- ① 議事次第
- ② 出席者名簿
- ③「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」単純集計結果・クロス分析結果
- ④「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」経年変化とりまとめ
- ⑤「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」重点的な分析結果
- ⑥「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」報告書章立て(案)

1. 挨拶

事務局より、本日の議事次第に基づき、配布資料の確認後、審議に入った。

2. 平成 24 年度原子力利用に関する世論調査結果 (p.33-132)

報告に先立ち、今年度の調査の目的の確認をさせていただく。第一に、事故後に変化が大きかった「国や専門家への信頼」「原子力発電への態度」について重点的に分析すること、第二に、今年度調査結果を含めた 6 回の調査結果を、事故を契機とした世論の推移としてとりまとめる、ということである。

それではまず、事故の前後で特徴的なものについて紹介していく。

p.44 問 3「原子力発電の割合」についての認知は、全体で見ると、正解である「約 3 割」という回答が増加していたが、これが事故を契機に減少して 36.8%となった。逆に、「約 7 割」という回答が事故後増加して 31.3%となっている。今年度調査においては約 3 割の方が「約 7 割」と回答している。年代別の経年

データをみたところ、「約 7 割」という回答が 20 代で 23 年度は 25.3%、24 年度は 39.2%、30 代で 23 年度は 33.0%、24 年度は 43.5% 顕著に増加。10 代は事故後の 23 年度調査で 38.2% という高い数値を示したが 24 年度調査で事故前並みの 22.4% となった。他の年代でも徐々に「約 3 割」という回答が減少し、「約 7 割」という回答が増加傾向にあった。この結果については、事故後、「原子力発電が 3 割」という広報が行われていないことを受け、「約 3 割」の回答が減少したのだと考えている。しかし、ほぼすべての原子力発電所が停止しているにも関わらず、原子力発電の割合が「約 7 割」という回答が全体の 3 割まで増加しているのは、エネルギーの全体的な情報の理解ができているのか気になるところである。

次に、*p.45* 問 6「放射線に関する知識」として、知っているものを選択するものだが、23 年度の調査において増加した選択肢が多かったが、24 年度調査においては全体的に減少傾向にあった。その中で、事故の影響としてはっきりと読み取れる変化は、「自然界にある放射線」であり、過去調査において 2.5 割程度から事故後の 23 年度に 41.9%、24 年度は 42.3% となっており、事故後継続して 4 割程度の水準を維持している。

続いて「関心」についてだが、*p.48* 問 7-1「原子力やエネルギーの分野で関心のある事柄」では、23 年度に「太陽光発電の開発状況」「風力発電の開発状況」「バイオマス発電の開発状況」等自然エネルギー、新エネルギーに対する関心が高まったが、24 年度調査においては若干減少傾向にある。事故を契機に関心が高まり、徐々に関心が低くなってきたと考えている。「日本のエネルギー事情」は事故後に増加し、同水準を保っているのだが、*p.99* 問 24 福島に関連して心配していることで「エネルギー政策」という選択肢があるが、3 割程度で昨年度よりも減少しており、具体的な心配にはつながっていないとも読み取れる。

「情報源」のうち具体的な情報の取得方法に関する設問 (*p.52~p.55*) については、事故を契機とした 23 年度調査で全体的に回答の総量が増加し、24 年度調査では若干減少傾向があるものの事故前よりも依然として高い水準である。

p.54 問 9-1「原子力やエネルギーに関するイベント・施設・情報源」のうち「参加してみたい」ものでは「勉強会」が事故後に増加し、24 年度若干減少したものの、事故前よりも高い水準を保つ。一方、23 年度調査で 10 ポイント以上減少して 32.0% となった「施設見学会」は 24 年度調査で 36.2% となり、事故前の水準である 4 割前後に近づいており、原子力関連施設への不安が解消したためであると考えている。現在、停止中の原子力発電所では見学会等も積極的に受け入れているので、安全性向上対策の実施状況等、実際に見学していただくことは一般の方のニーズに合ったものであるといえる。

「信頼」については、専門家 (*p.72*)・国 (*p.76*)・原子力発電の技術 (*p.75*) に対する信頼は事故を契機に 23 年度大幅に減少し、24 年度調査においても引き続き信頼が低い傾向である。なお、信頼については、重点的な調査項目として、木村委員のご協力を得た分析を後程ご紹介させていただきたい。

続いて「リスク認知」と「ベネフィット認知」についてだが、ベネフィット認知で問 10-1 (p.86) 原子力の平和利用、問 10-m (p.87) 温暖化対策のための原子力利用が「必要」という回答は、他の項目同様に事故を契機に減少している。なお、ベネフィットについてだが、問 10-1 (p.86) 原子力の平和利用、問 10-m (p.87) 温暖化対策のための原子力利用はベネフィットの認知とともに、原子力発電を選択するかどうか、という要素が入り込んでしまうので、分析の際に考慮すべき点になると考えている。

原子力に対する態度として、問 10-a (p.90) 放射線利用を必要であるという意見は事故があっても減少していないが、原子力発電や原子力の利用・活用という文言が入っている設問に対しては事故後減少し、継続して低い水準である。「放射線利用」と「原子力の利用」は一般の方に別のものとして捉えられていることが分かる。問 21-1 (p.96) 今後活用すべきエネルギーでは、問 7-1 (p.48) 関心の分野で新エネルギーや自然エネルギーへの関心が事故を契機に高くなったのと同様、新エネルギーや自然エネルギーを選択した人の割合が 23 年度調査において増加し、24 年度調査結果で減少傾向にあった。

最後に、事故に関連した設問であるが、問 23 (p.98) 事故や原子力・放射線に関する情報を積極的に得ようとしたかという問については、昨年度よりも積極的という回答が減少し、48.4%から 29.6%となった。事故から時間が経過し、関心が減少したことが顕著に表れている。問 24 (p.99) 現在心配していることについては、放射線の影響については 23 年度調査と同様高い水準であるが、電気料金の値上げが 5 ポイントほど増加している。電力会社管轄で分けたクロス集計を出したところ、母数の違いはあるものの、東京電力管内が他の電力会社の管内よりも高い割合であり、地域差があるといえる。

<質疑応答・コメント>

- ・ベネフィット認知の捉え方は、一般的に有用だという認知と必要だという認知は相関が高いのでベネフィット認知として捉えてよいのではないか
- ・問 10-b 原子力発電の必要性は、事故を契機に減少しているという結果であったが「必要である+どちらかといえば必要である」という意見のほうが「必要でない+どちらかといえば必要でない」という意見よりも高い。必要かを問うているため、原子力発電を推進すべき／利用すべきといった設問になった場合はもっと減少すると思われる。回答の経年変化をみると、問 10-m 温暖化に原子力を利用と挙動が似ており、ベネフィットについての問に近い。必要性の認知は推進・反対といった行動を起こす判断にはならないため、今後の課題ということになるが、この先に推進・利用・廃止・反対等の設問が最終的には来るのではないか。

→次年度以降の課題として設問の分類・追加等を再検討したい

- ・問 8-1 で微少ではあるが「博物館・展示館・PR 館」が減少している。他の選択肢と違い、実際に行動を起こして情報を得に行く唯一の媒体であり、事故がなければ減少し、事故があると増加するというのが一般的なのではないか。

- 東京電力管内では閉鎖している可能性もあるため、地域別の差が出るかもしれない。ただし、総数が少ないため統計的に優位かどうかの判断は難しい。
- 「博物館・展示館・PR館」については広報予算の削除等によってPR館等が縮小され、徐々に減少していったという経緯が過去のWG委員会において議論された記憶がある。東京電力管轄地域／その他の地域で差異があるか確認し、追ってご報告させていただく。(p.102 総数が少なく、明確な差はなかった)
- ・問 11-1 信頼の理由で、「信頼したいから」「信頼できないから」以外の選択肢は「どちらともいえない層」と「信頼できない層」と差があまりない。「どちらともいえない層」は信頼できないからという判断ができず、どちらともいえないという回答となり、「信頼できない層」は信頼できないという考えがあって信頼できないという回答になっていないとも考えられる。また、「信頼できる層」は反対の構造で、信頼したいからという理由が大きく興味深い。
 - ・リスクメッセージをどう送れば理解していただけるかという実験がある。情報の送り手を「信頼できる」「信頼できない」というペルソナかぶせた場合に情報の受け手がリスクメッセージをどのように受け取るかという実験で、結果が類似している。「信頼できる」というペルソナをかぶせると14パターンの説明方法でどの説明方法を用いても、リスクメッセージを受け入れる傾向にある。逆に、「信頼できない」というペルソナをかぶせると「信頼できないが、その説明であれば聞いてみる」「信頼できないので、何を聞いても信頼できない」といった2層に分かれる傾向にあった。
 - ・価値観が先にあり、態度を決定する人は一定の割合でいるのではないか。どちらともいえない層は、「信頼できない」以外の信頼の理由は「信頼できない層」と類似している。情報を収集したり比較したりして、手持ちの情報で考えても結論が出ないということかもしれない。
 - ・事故前の22年度調査においても「どちらともいえない層」の回答理由が「信頼できない層」と類似していたのか、徐々に類似してきたのか等確認してはどうか。
 - ・「信頼したい」「信頼できない」という理由は単純で、このような選択肢を避ける人もいると思われる。
- 22年度調査以降、「どちらともいえない層」の回答の傾向を確認してみる
(p.103 どちらともいえない層は平常時であった22年度調査においても信頼できない層と回答傾向が類似していた)

3. 過去のデータのとりまとめについて (p.133-p.191)

過去のデータのとりまとめについては、第一回WG委員会でご相談したとおり経年変化をグラフ化した。ご確認いただき、修正すべき点等あればご指摘いただきたいと思います。

<質疑応答・コメント>

- ・下表に%の表示をしたほうがよい

- ・下表の数値は小数点以下第一位にそろえる
- ・グラフの最大値は 100%に統一し、全体の中の位置がわかるようにする
- ・調査を実施しなかった設問はハイフン、無回答が 0.0%の場合は 0.0 とする

→ご指摘いただいた点は修正する

- ・実際の調査票は入手できないのか

→属性と該当部分の入手ができるか確認する

4. 重点的な分析項目について（クロス集計）（p.193－p.201）

重点的な分析項である問 10-b 原子力発電の必要性、問 11-1 専門家への信頼、問 13-1 国や自治体への信頼についてクロス集計を詳細に行った。クロス集計は第一回 WG 委員会で確認をしたが、属性別・知識の多さ別・関心の高さ別・情報収集の積極性別である。すべての項目で、知識や関心が多い人ほど必要ないというような傾向となっており、どのように読み取ればよいのかご相談したい。なお、属性別の経年変化では男性・女性の差はあったが、年代別・子供の有無別・立地／非立地の地域別で経年的な共通事項は見られなかった。

<質疑応答・コメント>

- ・知識や関心が多いほど必要ないという意見が増えるという結果になると、教育や広報の効果がないということになってしまうのではないか
- ・一般的に、関心は不安との相関が高い。事故で不安と関心が高くなり、情報を得ようとするということであれば、このような結果になる可能性がある。
- ・知識が増えれば、どちらともいえないという回答は減少するが、「必要」「必要でない」、「信頼できる」「信頼できない」のどちらに移動するかは、情勢によって変化するものである。震災前は必要であるという情報が多く、震災後はリスクの情報が多いという動きがあり、事故が起きた情勢において、このような結果になったのではないか。
- ・知識の多さは正答率と個人の知識の見積もりでは異なる。正答率と見積もりでは相関が 7 割程度である。
- ・年代別では事故以降、若年層のほうが必要という意見が高くなっており、年代との相関が高くなっているのではないか。
- ・若年層は関心の低さがあるため必要でないという意見が依然として高いという可能性もある。
- ・ネガティブな回答では、年代別の傾向が類似しているのではないか。将来のことを考えて原子力は縮小という意見が、年代が高くなるにつれて増加しているのかもしれない。

5. 重点的な分析項目について（相関関係）（p.202）

木村委員の協力のもと、信頼と原子力への態度に関する相関分析を行った。調査モデルの各要因について信頼・態度・リスク・ベネフィット以外の要因については統計的な処理を行うにあたって課題があるため、最初にご報告する。

まず、表 1 は、調査モデルに、現在調査で使用している設問をコーディング

によって振り分けたものである。「環境問題」・「社会価値観」・「科学技術に対する態度」は問 19 が対応する設問だが、モデルを統計的に検証するには設問が不足している。「イメージ」に対応する設問は問 4 と問 5 だが、イメージの中にリスク認知やベネフィット認知等の要素が含まれており、純粋なイメージとして取り出すには課題が残る。「広報への評価」については、この調査モデルは心理モデルであるため、関係が出てこない可能性もある。これらの課題は、設問の追加や、既存の設問で数量化三類分析で関連性が出てくるか分析する等、今後の検討事項になると考える。

続いて表 2 信頼・原子力への態度・リスク認知・ベネフィット認知の相関分析だが、信頼については専門家・国・技術・平和利用の 4 項目の相関が高かったため、これらを信頼の 1 つの指標として取りまとめた。原子力発電への態度では、推進／反対という設問がないため、原子力発電の必要性を態度として扱うこととし、該当する設問は問 10-b、c、d と問 21-1 の選択肢「原子力」の選択の有無としてこれらを加算項目とした。なお、評価としてクロンバックの α 信頼性係数を出したところ 0.84 となるため、加算してよいと判断した。ベネフィット認知は問 4 の選択肢で「役に立つ」「役に立たない」という対照的な項目があるため、「役に立つ」を+1、「役に立たない」を-1、選択していないものを 0 とする 3 点尺度とした。リスク認知では問 4「危険」・「不安」が該当すると考えられるが、これらをまとめるとクロンバックが成立しなかったため、今回はこれらを分けて使用した。信頼に関しては、問 11-1 専門家、問 13-1 国や自治体、問 16 技術、問 22 平和利用を加算項目としてクロンバックの α 信頼性係数を出したところ、0.61 となり、まとめることができると判断して加算尺度とした。なお、信頼については、因子分析や主成分分析を実施してもよいかもしれない。

以上のとおり、各モデルの要因について取りまとめを行ったうえで、原子力に対する態度を従属変数とし、その他の要因を説明変数として重回帰分析を行った。その結果、信頼が+0.34 ポイント、リスクの不安が-1.1 リスクの危険-1.2、ベネフィットが+1.6 となり、統計的には優位であることが分かった。なお、決定係数は 0.22 となっており、このモデルで 22%の説明率があるができるということになった。なお、下表は、重回帰分析をするにあたり、それぞれの相関が高すぎる場合は意味をなさないため、念のため相関の確認をしたものである。

これらの重回帰分析の結果から、信頼が必要性に影響があるという結果となり、信頼と必要性の部分について、調査モデルが成立しているということとなった。

今後の検討事項として、一般的な調査では原子力の態度として賛成・反対を聞いており、賛成・反対に必要性が影響してくるため、本調査の設問のみで原子力への態度を示す分析にはなりきれないかもしれない。従来知見も入れて検証していくのであれば、推進廃止の議論をどこかに入れて、必要性和ベネフ

ットをうまく配置すると整合的なモデルができるかもしれない。

<質疑応答・コメント>

- ・調査モデルが心理モデルであり、統計的に処理できる範囲が限られてくる。
- ・環境問題への態度やイメージの議論がこのモデルにどのように影響してくるかを検証できるように、少し設問を変更しなければならないかもしれない。
- ・経年変化の観察も必要であるため、問題の中から、いくつかの指標を取り出せば、設問を変更せずに分析できるのではないか。
- ・現行のモデルで統計学的な処理が難しい項目については、設問項目が尺度を示す設問になっていないため、整理する必要がある。
- ・単独の選択肢を経年変化で見る価値は見えてきているため、設問の変更よりは分析で指標を取り出す等の手間をかけて分析したほうがよいのではないか
→ご指摘をモデル検証や設問改定の参考とし、今後の課題とさせていただきます。

6. 報告書章立てについて (p.287)

資料 6 の報告書章立てについては、電力中央研究所との契約仕様書と同じ並びで作成してある。なお、考察については、本日も紹介したように、事故を契機に特徴的な点および、基本的なエネルギー全般に対する理解が得られていない点、継続していくうえで設問の検討について等について取りまとめたいと考えている。

7. 委員によるコメント執筆のお願い

報告書章立てにも記載したが、委員の方々からは報告書に掲載するコメントをいただきたいと考えている。後日ご依頼させていただくのでよろしくお願ひしたい。コメントの執筆をお願いしたい。

以 上

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
第二回WG委員会 議事次第

と き：平成 25 年 1 月 29 日（火）

19：00～20：30

ところ：東京大学第一本部棟会議室

- 19:00 開会
- 19:00～19:05 財団挨拶（事務局）
- 19:05～19:15 単純集計結果および経年変化とりまとめの報告（事務局）
- 19:15～19:35 審議（委員）
- 19:35～19:55 重点的な分析結果の報告（事務局）
- 19:55～20:15 審議（委員）
- 20:15～20:20 報告書章立てについて（事務局）
- 20:20～20:25 審議（委員）
- 20:25～20:30 委員コメント執筆のお願いについて（事務局）
- 20:30 閉会

配布資料

1. 議事次第
2. 出席者名簿
3. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」単純集計結果・クロス分析結果
4. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」経年変化とりまとめ
5. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」重点的な分析結果
6. 「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」報告書章立て（案）

「平成 24 年度原子力利用に関する世論調査」
第二回WG委員会
出席者名簿

【委員】(50 音順・敬称略)

飯本 武志 東京大学環境安全本部 准教授
木村 浩 東京大学大学院工学系研究科 准教授
齋藤 朗 社会安全研究所 取締役 ヒューマンファクター研究部長
富山 雅之 台東区立御徒町台東中学校 主幹教諭

【事務局】

横手 光洋 日本原子力文化振興財団・専務理事
船越 誠 日本原子力文化振興財団・企画部長
河崎 由美子 日本原子力文化振興財団・企画部副部長
鈴木 彩子 日本原子力文化振興財団・企画部

目次

はじめに

第1章 概要	○
1.1 調査の目的	
1.2 調査内容	
1.3 調査の流れ	
1.4 ワーキング(WG)委員会の設置	
1.5 透明性、有益性の確保	
第2章 質問票の設計	○
2.1 質問票の設計	
2.2 世論調査票	
第3章 サンプルングと調査実施	○
3.1 調査の目的	
3.2 調査モデル	
3.3 サンプルング	
3.4 調査実施	
第4章 調査結果の分析	○
4.1 データの分析	
4.2 分析の重点項目	
第5章 考察	○
5.1 考察	
5.2 委員からのコメント	
第6章 WG委員会の設置と調査内容の検討	○
6.1 WG委員会の開催	
6.2 第1回WG委員会	
6.3 第2回WG委員会	

付録 平成 24 年度世論調査 基本集計表